



交通事故防止

夜間の交通事故に注意

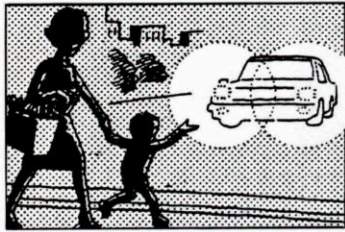
夜間の交通事故は、昼間に比べて死亡につながるケースが非常に多く、高い危険性をはらんでいます。これから夜の長くなる冬場に向かい、運転にはより一層の注意が必要です。そこで、夜間の交通事故を起こさないための注意点を考えてみましょう。

夜間の安全運転

昼、夜を問わず、運転に慎重さが必要なことは言うまでもありませんが、特に夜間は次のような特徴があるため、より一層の心配りが必要です。

- ▽視界が極めて悪い。
- ▽昼間とスピード感覚が異なり、スピードを出しやすい。
- ▽飲酒運転、過労運転や居眠り運転が多くなりがちで、また、歩行者の中にも酔って歩く人が多くなる。

夕暮れ時から夜間にかけての交通事故を防止するため、ドライバーの皆さんは次のような点に十分注意してください。



ライトは早めにつけよう 意外と暗い夕暮れ時

薄暮の時間は、刻々とやみに向って時を刻むので、わたしたちが、まだ明るいからと感じる以上に、実際には、暗い場合が多いのです。ライトは早めにつけましょう。なお、交通量の多い市街地はもちろん、対向車や先行車がある場合には、相手を幻惑しないよう必ずライトは下向きに切り替えましょう。

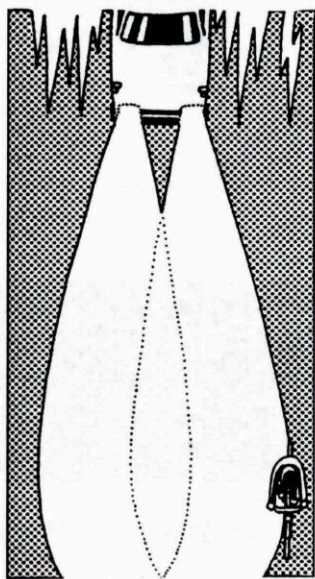
スピードは

昼間より控めに

夜間は視覚情報が極端に少ない。クミラーやサイドミラーも見えにくくなります。運転に必要な視覚からの情報量が、昼間に比べて極端に少なくなり、速度感覚がぶくなくなり、その結果スピードを出し過ぎることになります。

一般に安全運転には、前を走る車や対向車の流れ、歩行者の動きなど、いわゆる前方の情報だけでなく、側面や後方からの情報も大いに必要です。

ドライバーは無意識のうちにも、これらの情報をキャッチして運転動作に反映させているのです。ところが、夜間の場合、視覚による情報は、わずかにヘッドライ



歩行者の横断に十分な注意

道路中央で一瞬消える蒸発現象。目の良し悪しにかかわらず、人や物が見えなくなる蒸発現象が起こるのも夜間の特徴です。

トが照らす部分に頼らざるを得ません。このため、視界の情報量が昼間に比べて格段と少なくなり、本人が意識していかなくても運転動作や速度感を鈍化させるのです。このことが死亡事故に直結する危険な高速度運転になりやすいわけです。ところで、夜間の唯一の情報源ともいえるヘッドライトは上向きの場合で約百メートル、下向きで約四十メートルぐらい先のものを確認できます。

しかし、百メートル先といっても時速六十キロのスピードでは六秒、四十メートルの距離はわずか二、四秒で通り過ぎてしまいます。このことから、夜間のスピードの出し過ぎは、自殺行為と言っても過言ではありません。昼間より控え目の速度で運転するようにしましょう。

居眠り運転防止

眠くなったら車を止めて休みましょう

夜間の運転につきものなのが居眠り運転です。運転をしながら眠くなったら、まず車を止めて休みましょう。まだ大丈夫と思っても、睡魔はあとからおそってきます。車を止める場合は、駐車しても安全な場所を選びましょう。また、眠気防止には、車内温度の調節や新鮮な空気を入れることも大切です。

見通しの悪い交差点やカーブでは合図を

見通しの悪い交差点やカーブの手前では、ライトを点滅したり、上向きにして、自分の車の存在を、対向車や歩行者などに知らせましょう。

